

～「患者ファースト」の医療を信条に、 地域のかかりつけ医を目指します～

院長の野崎良一先生にお話をうかがいました (編集部)



〔益城熊本空港インターチェンジ〕から車で3分、〔益城IC口〕バス停から徒歩5分

ドクター歴38年、集大成のクリニックで地域に恩返しを

私は自治医科大学を卒業し、約10年にわたる熊本県の公立病院に勤務しました。その後は大腸肛門病センター高野病院で28年間、炎症性腸疾患（IBD）を診療し、多くの患者さんと共に過ごしてきました。そして昨年9月にクリニックを開業し、ちょうど1年が経ったところです。2016年の熊本大地震で熊本市に隣接する益城町は被災し、医療機関はひっそりしました。熊本県のみなさんに育てていただいた私にとって、「地域医療に貢献することが恩返しになれば」という思いもあります。このような背景から、IBDはもうろんのこと、私の原点でもある地域医療も踏まえて診療を行っています。

一人ひとりの患者さんに
ベストを尽くす

当院には潰瘍性大腸炎の患者さんが約300人、クローン病の患者さんは100

必要に応じてしっかりと検査を受けましょう。

明るく楽しく、いつも笑顔で患者さんを迎えます

念が大切だと感じています。具体的には粘膜治療です。そのためには個々の患者さんの状態をしっかり把握しておく必要があります。例えば短い時間でも「全力で向き合い、ベストを尽くしたい」という思いです。当院ではIBDの基本治療薬や新薬はもちろん、生物学的製剤もバイオシミラー（後続品）を含めすべて導入していますので、一人ひとりの患者さんに合う治療法を一緒に考え、選択することができます。近年はIBDのがん化も重要な課題です。ある大学のデータでは、症状増悪による手術よりも、大腸がんを合併し手術になるケースのほうが増加していると報告されています。

振り返ると、かれこれ10年以上のお付き合いになる患者さんが大勢います。開業して一番うれしいのは、診察時にみなさんとゆっくり話ができるようになったことです。まるで自分の子どものような感覚でしゃべってしまつこともあるんですよ笑。先日「野崎先生に診てもらって良かった」と言いながら明るい笑顔で帰っていく患者さんを見て、私もうれしい気持ちになりました。IBDは長く付き合う病気ですが、

読者のみなさんには「決して悲観しないで」とお伝えしたいです。私が初めてC Crohn's Diseaseのインタビュを受けた時（もう20年近く前ですね）、無病息災ならぬ「一病息災」というメッセージを残しました。その思いは、今も同じです。さらに付け加えるならば、きちんと病気をコントロール（＝治療を継続）し、寛解を維持することで、充実した毎日を過ごしていたらいいと思います。一緒に、明るく楽しく治療に向き合えたら良いですね。



「検査も私が最初から最後まで責任をもって対応しています（野崎先生）」



院長の野崎良一先生

のぞき消化器IBDクリニック

住所&TEL 〒861-2236
熊本県上益城郡益城町
広崎1572-1
096-285-3373

診療科目 消化器内科、内視鏡内科、
胃腸内科、内科、肛門内科

受付時間 月～土 8:30～11:30、
14:00～17:00
水曜は検査のみ（午後休診）
水曜午後、第2・4金曜、
第5金曜午後、日曜、祝日

休診日

URL <https://nozaki-ibd.com>



野崎先生とスタッフのみなさん。「(スタッフが)いつも私を助けてくれるので感謝しています(野崎先生)」